

「少しでも 手をあげる前に 考えて」

(高島中学校3年 岸田 七海さん)

子ども虐待防止活動の一環として、昨年7月に募集した標語の中から、毎月1作品をご紹介します。

シリーズ ⑤ 子どもをまもる

子どもが持つ力 ～エンパワメントの視点～

子ども虐待の被害にあった子どもにも共通する状態の一つに「自己評価の極端な低下」があります。

この「自己評価」とは、自己肯定感、自尊心とも言われ、自分は生きている意味(存在価値)がある(誰かから)必要とされている、という感覚のことで、生きていく上で一番大切なものです。

ところが、子ども虐待やいじめなどの要因で安心感が持てなくなると、自己評価はどんどん低くなります。またその結果、心身症や不登校、非行などの行動をとることもあります。子どもたちがこういった症状や行動を見た時、私たち大人に必要なことは「叱る」「指導する」ことではなく、「エンパワメント」の視点を持つということです。エンパワメントとは、人は皆生まれながらに様々な素晴らしい力を持っているという信念から出発する考えで、その力の中には自分を癒す力、ふりかかってきた問題を解決す

相談先

子ども家庭相談課 ☎(25)8517、市役所代表 ☎(25)80000
または、市内各保健センター
滋賀県中央子ども家庭相談センター ☎077(562)1121



る力、それに個性という力があります。子ども虐待やいじめなどの暴力(外的抑圧)は、被害を受けた子どもたちの心から自分への自信を奪い、自分の尊厳、素晴らしさを信じられなくしてしまいます。また、そういった抑圧から「自分は大切なことない、つまらない人間だ」などの無言のメッセージを読み取り、自らを抑圧(内的抑圧)してしまつたのです。外的抑圧を無くすためには、子どもを取り巻く環境や仕組みを変えていくことが必要です。内的抑圧を無くすためには、その子が社会から受けた必要なメッセージを一つひとつ取り除き「自分」の存在を大切に感じさせることが必要です。私たち大人は子どもと関わる時、「子ども自身が、本来持っている力を取り戻す手助け(エンパワメント)をする視点」を忘れてはならないと思います。

シリーズ ⑩ 現場から 子どもを信じ、向き合おう

先日、あるところで、機敏に、実に生き生きと身体全体を使って自分を表現し、舞台上立つ彼の姿を見た。何年か前、小学生の彼は人前で話すことが苦手、促され、待ってもらえば待つこともうほど、体が硬くなってしまつ事がしばしばだった。うまく自分の気持ちを表すことができず、大声で泣き叫んでしまつ事もあった。聞くところによると、中学校生活もすんなりとはいかなかったようだ。その後の彼のことはあまり知らない。

彼にどんな出会いがあったのだろう…。その日、目の前で躍動する彼の姿に私はくぎ付けになり、感動した。

職業柄、困っている子どもたちに関わることが多い。「けがをした」「体がしんどい」といった訴えのほか、教室で友達や教師と上手いかわらない、あるいは「家庭の事情」を背負い込んでつづれそうな子ども保健室に来る。彼もその一人だった。保健室では、少し時間の枠を外し、横に腰かけてゆっくりしゃべってみる。話さない時は一緒に絵を描いたり、筆談したり、ぬいぐるみを介して話してみたり。何に困っているのか、どうして欲しいのか、根本のところまで無理に聞き出すことはなく、聞いたところでどうしようもないのかもしれない。これでいいのかと迷いながら、今、この子の心に温かく灯火がともり、元気が出たらそれで良いかと思う。

「世の中のスピードが上がっても、人間が早く成長するわけではないのに・・・」先日の新聞に載っていたある大女優の言葉。小学校に入っても、中学校に進学しても、難しいパソコンの操作をやったのけたとしても、周囲の大人は子どもと目を合わせるといふことに手を抜いてはいけません。ゆっくりと関わった事が少しの水や肥やしになればと願っている。そして、あの時の子どもたちは今、人生の舞台に立つて力いっぱい生きていくのだと信じ、今日も子どもたちと向き合っている。

(小学校養護教諭)

※シリーズ「現場から」または本ページのご意見、ご感想をファクスまたは電子メールでお寄せください。ファクス番号は(25)5490、メールのアドレスはkodomo@city.takashima.shiga.jpです。

各地域の子育て支援センターが「季節に応じた様々な行事や旬の事業」を紹介する

みんなで子育て親育ち!



地域で子育て親育ち!

子育てサポートコーナー

よーしっ 育児もがんばるぞ

安曇川地域子育て支援センターでは、母親を対象としたリフレッシュ講座を開いています。

日頃、育児や家事に追われて、なかなかゆとりがもてないお母さん方に、サポートさんや職員がお子さんを探り、ほんのひとときでも気分転換をしてもえらえるようにとの願いから開催しました。

先日は「ピースを使ってプレスレット」や「リース作り」をしましたが、世界にたった一つだけの自分のオリジナル作品ができ、みんな大満足でした。

参加してくださった方から手紙をいただいたので紹介します。

支援センターには毎日のように行っています。

先生やサポートの方が丁寧にアドバイスをくださるので、まるで童心に返ったようにわくわくしながら、毎回とても楽しく参加しています。作品を作っている間のママたちのおしゃべりも楽しく、本当に身も心もリフレッシュできて、不思議と「よーしっ 育児もがんばるぞ!!」という気持ちになります。

(まーくんのお母さんより)

これからもまた、新たな気持ちで子育てに専念してほしいと願っています。

いつでも気軽に遊びにきてくださいな。

子育て奮闘中の保護者が綴るコラム

子育てのチヨットいい話



悩みが吹っ飛んだひと言

私は今、3歳の息子と1歳の娘の子育てに奮闘中です。息子は、好奇心旺盛で危ないことでも平気でやっています。そんな息子が1歳9か月のときに妹ができました。あまり構ってやれず、妹によく手を出すので悩んだものです。そんな時、支援センターの先生に「もう少し兄妹の年を離してあげたほうが良かったかな?」と相談すると「それは違つよ。二人とも来るべき時期にお母さんの元に来てくれたんだよ。」と言われました。その言葉を聞いて、涙が出てきました。今まで悩んでいたことが吹っ飛び、ゆつたりとした気持ちで楽しく子育てできるようになりました。そして今は、妹に「ジャンパー着せてあげよう。」とか、私には「お母さん、僕が洗濯物をたたんであげよう。」とか言ってくれるようになりまし。まだまだ甘えたいはずなのに、そんな風に言ってくれる息子に心も体も癒されます。これからは、二人の子どもたちと一緒に、母として、もっと成長していきたいなと思っています。

=子育て支援センターへの問い合わせ=

- マキノ地域(マキノ児童館内) ☎(27)8187 ●安曇川地域(古賀保育園内) ☎(33)1540
- 今津地域(今津東保育園内) ☎(22)4833 ●高島地域(高島保育園内) ☎(36)0660
- 朽木地域(朽木保育園内) ☎(38)2070 ●新旭地域(大師山さくら園内) ☎(25)3399